

宮崎県 (高千穂郷・椎葉山地域)

素材研究
(国内)



約1900年前に創建された高千穂郷八十八社の総社・高千穂神社



神話と伝説の町「高千穂」を象徴する伝統芸能の神楽



棚田などを潤す山腹水路網の総延長は500キロに及びます



椎葉村では縄文時代からの伝統的な焼畑農法が続いています

天孫降臨の地といわれる二上山のある高千穂町押方地区

「神話の里」にとどまらない魅力を提案 世界農業遺産認定で注目される地域の生業

「神話の里」で知られる宮崎県高千穂町。同町と日之影・五ヶ瀬・諸塚・椎葉の3町2村を含む「高千穂郷・椎葉山地域」が世界農業遺産に認定され、地域の生業や風土に根差した魅力への注目が高まっています。

伝統文化の神楽などで地域が結束

宮崎県の北部に位置する「高千穂郷・椎葉山地域」は昨年12月、国連食糧農業機関（FAO）本部で開催された世界農業遺産（GIAHS）運営・科学合同委員会で、GIAHSに認定されました。GIAHSは、伝統的な農業・農法とそれによって育まれた文化や土地景観、生物多様性に富んだ世界的に重要な地域を、それらの保全と持続的な活用が図られることを目的に、FAOが認定するものです。

標高1500メートル級の山々に囲まれた険しい山間地である高千穂郷・椎葉山地域は、日本神話で建国の祖が降臨したと言われ、様々な神話が息づくと同時に、地域の人々が自然を敬い、自然と調和しながら農業で生計を立ててきました。

宮崎県農政水産部農政企画課によると、今回のGIAHS認定は、「多くの農家で森林の恵みを生かし農林業複合経営が営まれてきた」に加え、「共同作業を通じて

養われた強力な地域コミュニティも、伝統文化である神楽や自治公民館などで結束を強め、地域改善活動と森林の保全管理を行う循環システムを生じさせている」（新農業戦略室）ことが評価されたものです。

伝統的な焼畑農法も「観光資源」に

高千穂郷・椎葉山地域は、「日本神話ゆかりの地」と言われる高千穂町に、天岩戸・天安河原、くしふるの峰など神話の舞台と伝えられる地と神々を祀る神社が数多く存在することから、宮崎県では最も入込客数が多い人気エリアですが、同県観光経済交流局観光推進課によると、「阿蘇方面へ向かう途中に立ち寄る通過型の観光地にとどまっている」（誘致企画・MIC担当）ため、滞在時間の拡大や回遊性の向上などが課題となっています。

今回のGIAHS認定により、日本で唯一の自然と調和した伝統的な農法である焼畑が継続されている地域として評価され、全国に先駆けた農家民宿や森林セラピーなど、地元が生業や風土を活かした「観光資源」が注目されることで、神話の里々だけにとどまらない魅力を通じた誘客拡大への期待も高まってきました。

同県観光推進課では、「人材育成やおもてなしの強化とともに、高千穂郷・椎葉山地域の『新たな魅力』をブラッシュアップして、旅行会社の皆さんに様々な提案を行っていききたい」と意欲を示しています。